

ごさいじん
御祭神

稲荷神社に祀られている神様

うがのみたまのかみ
宇賀御霊神

『古事記』では須佐之男命と神大市比売命の御子とされ、神名の「ウガ」から、食物や農耕、殖産興業の神とされる。

すさのおのみこと
須佐之男命

伊弉諾大神の子で、天照大神・月読命と共に三貴神の一柱。農耕や病災除、災難除の神とされる。

かむおおいちひめのみこと
神大市比売命

『古事記』では須佐之男命と結婚し、大年神・宇賀御霊神を産んだ。五穀豊穰や商売繁盛の神とされる。

御神徳

五穀豊穰

開運厄除

商売繁盛

ごゆいしよ
御由緒

稲荷神社の歴史

当社が鎮座する倉敷市茶屋町一帯は、もともと海域で「吉備の穴海」と呼ばれており、近世に入り徐々に干拓されていったという歴史を持つ。

江戸時代中期の宝永四（一七〇七）年、一連の干拓事業が完了すると、領主戸川公の寄進地（現在の神社鎮座地）に、早島村城山正一位稲荷大明神の御分霊を祀り、この地域一帯の氏神とした。

享保十八（一七三三）年の本殿創建を機に、翌年の享保十九（一七三四）年六月、京都の稲荷神社（現在の伏見稲荷大社）から御分霊を迎え、改めて御祭神とした。令和十六（二〇三四）年には御鎮座三百年を迎える。



れいさい しんこうさい
例祭・神幸祭

稲荷神社の秋まつり

当社の秋季大祭では、神社にとって一年で一番の重儀である「例祭」、並びに稲荷大神に御神輿へお遷りいただき、行列を組んで町内を練り歩く「神幸祭（御神幸）」が斎行される。この歴史は古く、社伝によれば鎮座から百年余り経った安政三（一八五六）年より開始されている。その後、明治期と昭和期に二度の中断があり、昭和五十（一九七五）年に復活した。

古くは十月十四・十五日を例祭・神幸祭としていたが、現在は社会情勢や生活環境の変化もあり、十月第二土曜日、翌日の日曜日を例祭・神幸祭として秋季大祭を斎行している。





稲荷神社御由緒

倉敷市茶屋町鎮座



茶屋町 稲荷神社

〒710-1101 倉敷市茶屋町 1547

電話・FAX 086-428-5577

<https://inari-jinja.com/>

年間祭典及び神事

- 一月 一日 歳旦祭
- 二月 初午 初午祭
- 二月 十一日 紀元祭
- 二月 二十三日 天長祭
- 四月 二十九日 昭和祭
- 五月 第二土曜 春季奉納奉告祭
- 五月 第二土曜 春季大祭 (宵宮祭)
- 翌日曜 春季大祭 (祈年祭)
- 六月 三十日 水無月大祓式
- 七月 最終日曜 夏越祭・茅の輪くぐり

- 十月 第二土曜 秋季大祭 (例祭)
- 翌日曜 秋季大祭 (神幸祭)
- 十一月 三日 明治祭
- 秋季奉納奉告祭
- 十一月 二十三日 新嘗祭 (新穀感謝祭)
- 十二月 三十一日 師走大祓式
- 古神札焼納祭・除夜祭

旧例祭日により 毎月十四日 月次祭
 ※春秋大祭と重複した場合は齋行なし